

浅茂川地区の紹介



★浅茂川(あさもがわ)というところ

網野町中心より西側に位置する大きな集落。

古くは浅茂川村で存在し、網野村(明治33年網野町制施行)現網野地区とは現在と違いははっきりとその集落は離れていました。東側(網野側)にはほとんど家屋はありませんでした。

「口がガセィヤー」と過去には云われたこともあるのは、それもそのはず漁港、漁協、競り市などがある漁師村。でも近年はそのようなことはあまり聞かなくなったようです。そして大昭区等を中心に沢山の転入世帯が増えてきました。

次回に詳しく紹介しますが南側下岡(シモカ)境にはそんなに遠くない過去には湖水がありました。「かつみ」と呼称され今においてもそんな通称名を用いた場所があります。



★浦島(うらしま)伝説

日本各地に残るおなじみの「浦島太郎」の伝説がこの地にもあり、海岸のそばに「浦島神社」として祭られています。後述の「水無月まつり」のメイン場所となっています。また、地元「浦島」と呼ばれる屋号のお家があります。

★節分の行事「やそや」

いつの頃からか定かではない行事だと云います。節分の夜に日吉神社の太鼓を打ち鳴らし、子供らがそれに付きまわり村中の厄年、結婚をした者宅に立ち寄り、菓子、果物などの振舞いを受ける神事巡行行事です。掛け声の「やそや、やそや、鬼ばい子供ら～」の意味は別として、当時の子供らにとってこの上ない楽しい年中行事の一つで

あったことは間違いないでしょう。一方、掛け声の意味の厳格な答えもなく、その曖昧さの中で？近年において変容し、立寄る相手方の御名前を叫び「無病息災！商売繁盛！・・・」等々臨機応変の祈願の言葉を発していく形に変わりました。また、現在では子供は同伴巡行をしていません。その代りに各町内の保育所を訪問します。



★水無月まつり

ご存じの7月30日に行われる伝統の「夏祭り」です。近隣町内の方、府内都市部の方でも十分知って頂いていると思います。

元々は川岸の掃除から始まったといえます。どこの地域でも村内に河川を持つ所はその川に流れ着くゴミ等の清掃に大変苦勞をされているはずです。浅茂川の場合は「福田川」を抱えておりさらにその裾には日本海がありますので海から漂着する物、川の上流から流れ着く物、大変なゴミが川裾に集まります。そんなゴミを1年に1回村民が駆り出て大掃除をしたのでした。その後の慰勞の宴がついには賑わいをかもしだし祭りとなつたと化し、花火など打ち上げる納涼夏まつりとなったという話です。

★神輿巡行 「海上渡御(とぎょ)」 ↓



浅茂川地区の紹介

伝統守る同年会

浅茂川には何度か過去の紹介でも説明しましたように、区民の男女が初老の年に近づく時に、伝統的に続く同年会づくりをするという風習があります。区外、町外の方でも出身者であれば同年に入ることが出来て、浅茂川区のイベントごとには出向き、みんなで協力し合っているといます。浅茂川地区は 800 世帯を有する大きな集落ですが今でもこのような文化は継承されています。

そんな地区の初老同年男子の仲間たちが、毎年 7 月 30 日地区の水無月祭の神輿巡行のリーダー役を任されていると聞きます。また、夏の観光客向けに 30 年余り前から、写真にありますこのイベントを初老の同年会が行なっているとのことです。

2016 年

夏本番！

花火大会

2016 年 7 月 30 日八丁浜にて動画撮影より

今年も丹後に夏がやって来ました。7 月 30 日朝から猛烈な暑さの中、恒例の浅茂川地区の水無月祭りが執り行われました。神輿巡行（渡御）が終わった後、浦島太郎伝説にあやかり、乙姫様を竜宮まで迎えに行くというシーンを同区内の初老男子の仲間たちが企画されました。写真に写っている二人の男女は事前に公募された方です。

浦島伝説

夜においては、浅茂川区の主催で盛大な花火大会が行われました。沢山の方からの花火への協賛金を紹介した後、夏の夜の八丁浜シーサイドパークに集まった多くの地元、また観光客方々の見上げる中で賑やかに行われました。今回も昨年同様、たいへん天候がよく雨の心配もまったくなく、芝生のじゅうたんの上にそのまま心地よく寝入ってしまいそうな夜でした。花火大会の最後を知らせる派手な連発打ち上げの後、観客の大きな拍手で閉会となりました。